
仮面ライダーディケイド ~もうひとつのライダー大戦~

メフィスン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーディケイド ～もうひとつのライダー大戦～

【Nコード】

N2881Y

【作者名】

メフィスン

【あらすじ】

これは、もうひとつのライダー大戦…
仮面ライダーディケイドである門矢士、光夏海、小野寺ユウスケ。
その3人が見たものとは…

始まりと到着と悪魔再誕（前書き）

皆さん、初めまして！メフィスンです。

この物語は、仮面ライダーディケイドのライダー大戦の世界を元に新たにWやフォーゼなどを加えた、もうひとつのライダー大戦の世界を旅する、という話です。まだ頭の中であまり考えていませんが、がんばります！
では、見てください…

始まりと到着と悪魔再誕

「里中君！セルメダルの用意は出来てるかい？」

「はい、ここに全て。」

ここは鴻上コーポレーションの地下にある一室。

今…ここにいるのは、会長の鴻上光生と秘書の里中エリカだけである。

「そうか、ならすぐに始めよう。」

「分かりました、では“こちら”を…」

そういつて里中が鴻上に渡したものは…

一枚のコアメダルであった。

~~~~~

「ふぁ…よく寝たな。」

「あ、土君。おはようございます。」

「ははっ、土。お前本当よく寝てたな。」

「うるさいなユウスケ…お前が早すぎんだよ。」

ここは光写真館。

たった今起きてきた土に挨拶する夏海。いじるユウスケ。これまでこの3人は色々なライダーの世界を回ってきた。

「さあて、次はどんな世界だ？」

「ん？自分で見るよ？」

「そんなこと分かってる。」

そう言った土は、背景ロールに目をやる。

そこに描かれていたものは…

今までのライダーの変身道具…つまり、ベルトであった。

「「「なっ!?!」」」

「どうしたんだい、皆？」

三人は驚愕する。そこに海東が現れ、背景ロールを見る。

「…ふん。そういう事か。」

「おい、どういことだ！海東、説明しろ！」

「いやいや、僕も分からないよ…けど、大体は推測できる。」

「それって…どういことですか？」

夏海が尋ねる。

「恐らくここは…ライダー大戦の世界だね。」

~~~~~

「…」

さて、鴻上コーポレーションの地下では謎の怪人が鴻上と里中の前

に立っていた。

「素晴らしいっ！実験は成功だよ！里中君！」

「…凄い。」

鴻上は叫び、里中は実験が成功すると思っていなかったらしく、驚いている。

「素晴らしいっ！君にはこのスペースを提供しよう！里中君、準備を。」

「もうしています…！」

里中は溜息をつきながら、パソコンを操作する。

「…」

「さあ、外に出て暴れるがいい！」

「…グリッドとして生まれ変わった、仮面ライダーエターナル！」

始まりと到着と悪魔再誕（後書き）

…はい！短かったです、見てくださってありがとうございます。
こんな駄作見てくれる人がいるのか分かりませんが…頑張っ
て終わらせてみます！

さて、リイマジネーションの皆を何時入れようかな…

まあ、それはお楽しみに！

では、また次回！

戦・闘・開・始（前書き）

本当にすいません！

これだけ書くのにこんなにも時間をかけてしまい…

しかも、まだ戦闘が始まらないという…

とりあえず、見てください…

戦・闘・開・始

「ライダー大戦の世界だと？」

「ああ、そうみたいだよ？」

「何でそんなのが分かるんだ？」

「ここに来る前にちよつと外の様子を見てきたからね……。」

写真館では、海東が土とユウスケに質問攻めに合っていた。確かに、一度ライダー大戦の世界には行っていたはずなのにどうしてまた……

海東が溜息をついているところに夏海がコーヒートを渡し、

「でも、ライダー大戦の世界ならこの前行きましたよ？」

「ああ、そうだね。でも、この前の世界とはちよつとだけ違うみたいなんだ……」

「どつという事だ？海東。」

土が海東に尋ねる。――首ねつこを掴んだままだが。

「うーん……それが良く分からないんだよ。」

「……よし、分かった。お前が調べてこい。」

「ひいひい!？」

土が、握り拳を作り、海東を殴ろうとした時、

ドゴオォーン!

…外から爆発音が聞こえたのだ。

「……何(だ)！？」「」

「土君：皆も行きましょう！」

夏海はそういうと、すぐさま飛び出していった。

「あつ！待て、夏海！」

「おい、土！……行ってきます！」

「……って僕の話の話を聞けえええ！？」

それを追いかけるように、土が飛び出し、ユウスケは栄次郎に挨拶をして土に付いていき、

海東は叫びながら出て行った。

「朝から皆忙しそうだねえ。」

奥から様子を見ていた栄次郎がそう呟き、飲み残しのコーヒーを片付ける。

「今のうちに掃除でもしてようかな？」

「その必要は無い。」

「え？」

突然聞こえた声に驚き、栄次郎が声をした方を向くと、そこには誰も居なかった。

「おかしいねえ、確かこっちから……」

「貴方には、一緒に来てもらいたいのです……光栄次郎。いや……

——死神博士。」

~~~~~

「……………」

「「「きゃあああ！」「」「」

町ではグリードとなった、エターナルが暴れていた。突然現れた異形エタを見て恐れを抱いた人々が、慌ててその場から立ち去っていった。

「……………」

「おいおい、何してんだ？……んで、こいつはゾディアーツか、賢吾？」

『今解析を急いでいる。フォーゼで様子を見る、弦太郎。』

そんなエターナルの前に一人の青年が立ち塞がる。彼の名前は如月カキツキ弦太郎けんたろう。天の川学園の生徒だ。

「りょーかいつと……………おい、怪物！タイムンはらせてもらっぜ！」

「……………？」

弦太朗は自分の胸を強く二回叩くと、相手に拳を向けた。だがエターナルは、その意味が分からず、つい首を傾げてしまった。

「取り合えず、ぶっ潰してやるぜ！」

弦太朗がそういうと、フォーゼドライバーを腰につけ、それについている赤いボタンを押していった。——その時、エターナルは律儀に待っていてくれた。

全てのボタンを押し終わると、ドライバーからカウントダウンをする音声が流れてくる。

3、

2、

1。

「変身！」

そういうと、弦太朗はドライバーの横についているレバーを引き、腕を高く上に突き出す。

軽快な音楽とともに弦太朗の身体が煙に包まれ、煙が晴れると、そこには仮面ライダーフォーゼが立っていた。

「おっと、自己紹介を忘れてたな。俺は如月弦太朗、またの名を…仮面ライダーフォーゼ！総ての仮面ライダーとダチになる男だ！」

戦・闘・開・始（後書き）

次こそは！必ず戦闘を始めさせていただくので！

Eの暴走ノロケット頭とバーコード(前書き)

戦闘描写が酷いです……

## Eの暴走／ロケット頭とバーコード

「ぐあ！くっそ…これならどうだ！」

「…！」

フォーゼとエターナルの戦いは、エターナルの優勢であつた。

走ってきたフォーゼをエターナル避け、背中をエターナルエッジと呼ばれる短剣で斬る。ということはずっとしていたが、痺れを切らしたフォーゼがスイッチをONにし、

『R o c k e t ・ O N 』

ドライバーから音声が流れると、右腕にロケットと思われる形をした物が装着される。

「うおおお！これで…どうだ！」

「！？…ふんっ！」

右腕に装着された物…ロケットモジュールから煙が噴出し、エターナルに突進する。エターナルは避けるも、右腕に掠り、セルメダルが何枚か落ちる。

「メダル？…お前、この前の怪物の仲間か？」

「…？」

セルメダルを一枚手に取り、上に向かって投げるフォーゼ。それが落ちてくる前にフォーゼから奪った人がいた。

「うおっ！？お前は誰だ？」

「俺は通りすがりの仮面ライダーだ、覚えなくてもいい！……お前こそ誰だ？」

「俺の名前は仮面ライダーフォーゼ！全ての仮面ライダーとダチになる男だ！」

そう、門矢士であつた。彼は写真館から夏海を探して走り回っていたが見失つてしまい、またユウスケと海東ともはぐれてしまった。どうしようかと悩んでいると、二人の戦闘を見かけたのでここに来たのである。

「ダチになる？……はっ、実際にお前は何人の仮面ライダーとダチになつたんだ？」

「えっと……一人？」

「バカかよ……仕方ねえ、俺もダチつてやつになつてやる、だからあいつを倒すぞ！」

そういうと士はディケイドドライバーを腰に装着し、横に付いているライドブツカーからカードを取り出す。

「お、おお、いいぜ！あいつを俺も倒さねえと行けねえ！……お前はカードで変身するんだな」

「ああ、そうだ！……変身！」

カードをドライバーに入れ、バツクルを閉じる。

『KamenRide ——— DECADE』

ドライバーから音声が流れると、士は仮面ライダーディケイドに変身した。

「おお！かっこいいな！」



「そうかよ……………来るぞ！」

「ぬん！」

「うおつと！……………危ねえな！」

フォーゼとデイケイドが話しているとエターナルが短剣を構えて二人に向かって走ってきたため、デイケイドがフォーゼを蹴り飛ばし自分はライドブッカーソードモードで短剣を受け止める。

「お前は何なんだ！！！」

「さあな……………！あいつは仮面ライダーエターナルって言ってたなあ

！」

「何！？ぐあああ！！！」

相手も仮面ライダーだと言うことを知り、動揺してしまい、剣を弾かれてしまう。すぐに対応出来なかったデイケイドは何回も斬られてしまい、デイケイドはその場に膝をつく。

「エターナルなら……………これだ！」

『KamenRide W』

ライドブッカーから【カメンライド・ダブル】のカードを取りだし、ドライバーに入れ、もう一度バツクルを閉めると、仮面ライダーWにカメンライドしていた。

「お前、姿が変わるのか！？」

「W！お前だけは俺が……………！！！」

いきなり姿が変わったデイケイドに驚くフォーゼ。ダブルの姿を見て、昔自分がやられた相手のことを 思いだし、相手に襲いかかる。

ディケイドは素早く反応して、後ろに下がり、エターナルに一枚のカードを見せる。

「やっぱりな、お前は……………大道克己だろう？」

Eの暴走ノロケット頭とバーコード(後書き)

感想お待ちしてます！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2881y/>

---

仮面ライダーディケイド ~もうひとつのライダー大戦~

2011年12月8日23時45分発行